

令和 5 年 6 月 20 日現在

機関番号：25201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K10776

研究課題名(和文) 新人看護師の臨床判断力を育成するシミュレーション教育プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of a simulation education program to foster clinical judgment of new nurses

研究代表者

川瀬 淑子 (Kawase, Yoshiko)

島根県立大学・看護栄養学部・准教授

研究者番号：80642652

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：新人看護師の臨床判断力を育成するためのシミュレーション教育プログラムの開発と評価を目的とした。臨床判断に至る思考を促進するためにClinical judgment model (Tanner, 2006) に基づいたシミュレーション教育プログラムを作成し、新人看護師を対象にシチュエーションベースドトレーニングを実施した。プログラムの評価として研修前後、2か月後の臨床判断力、研修満足度、学びについて調査し分析を行った。結果、研究参加者は観察や判断の必要性を学んでおり、研修満足度も高かった。臨床判断力は研修前と比較し研修後、2か月後の得点に有意差が認められ、教育プログラムの継続的な効果が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

新人看護師の思考を促進するために臨床判断プロセスを取り入れたシミュレーション教育プログラムを開発した点に新規性がある。本研究で開発したシミュレーション教育プログラムを活用することは新人看護師の思考を鍛錬することにつながり、臨床判断力の向上が期待できると考える。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to develop and evaluate a simulation education program to foster the clinical judgment of new nurses. A simulation education program based on the Clinical judgment model (Tanner, 2006) was created to promote thinking leading to clinical judgment, and situation-based training was conducted for new nurses. As an evaluation of the program, we investigated and analyzed the clinical judgment ability, training satisfaction, and learning before and after the training and two months after the training. As a result, the study participants learned the necessity of observation and judgment, and their satisfaction with the training was high. Regarding clinical judgment, scores after training and two months after training were significantly higher than those before training, suggesting a continuous effect of the educational program.

研究分野：基礎看護学

キーワード：臨床判断力 シミュレーション 新人看護師 教育プログラム 思考プロセス

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

臨床判断力は、即時に看護の優先順位を決定し、多重課題に対応していくために必要な能力といえる。新人看護師においても、早期から複数の患者を受け持ち優先度の判断をしながらケアを行う状況にあり、臨床判断力の向上が求められている。新人看護師の臨床判断力を高めていくことは早期の離職を防ぐとともに看護全体の質の向上につながる。

Clinical judgment model (Tanner, 2006) において看護師の臨床判断のモデルが示されている。これは、看護師がある臨床場面において、患者の状況に気づき、多くの推論パターンを駆使しながら、分析的あるいは直観的、物語的に思考し、介入しその結果を振り返り、次の判断場面に活かすという発展的な臨床判断のプロセスであり、看護師の判断に至る思考を促進するものであり、この思考を鍛錬することが臨床判断力の育成のために必要である。

臨床判断力を向上させる教育方法のひとつにシミュレーション教育が挙げられ、その成果は数多く報告されている。中でもシチュエーション・ベースド・トレーニングは実際の看護判断に至る思考過程のトレーニングとして効果があるといわれている(阿部, 2013)。厚生労働省の「新人看護職員研修ガイドライン」においても、新人看護師の実践力向上に向けた教育方法としてシミュレーションが推奨されている(厚生労働省, 2018)。以上のことから、新人看護師の臨床判断力向上のためにシミュレーション教育を取り入れることは効果的であるといえる。海外では、シミュレーション教育における臨床判断力の評価は学生を対象としたものが多く、新人看護師を対象にしたものは少ない。日本においても、看護技術や多重課題に対するシミュレーションの教育効果は報告されているが(程島他, 2017)(西本, 2008)、臨床判断力に着目した効果については十分検証されていない。

2. 研究の目的

本研究では clinical judgment model (Tanner, 2006) を基盤とし、新人看護師の臨床判断に至るまでの思考力の鍛錬にむけたシミュレーション教育プログラムの開発と評価を行い、その有用性を検証することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) シミュレーションシナリオ開発のための調査

新人看護師を対象に困難を抱いたことがある臨床判断場面および、その場面における思考プロセスについてインタビュー調査を行った。

対象および調査方法: 看護師養成機関卒業後 1 年未満の看護師を新人看護師として選定した。A 県内の 100 床以上の病院のうち、無作為に抽出した 5 病院中、看護管理責任者の研究協力への承諾の得られた 2 病院の新人看護師 5 名を対象とした。新人看護師が困難を抱いたことがある臨床判断場面の思考プロセスについてインタビューを実施し、逐語録を作成した。

分析方法: 逐語録から臨床判断プロセスについて記載されている箇所を抽出し、コード化し、類似性に着目し、サブカテゴリ、カテゴリを生成した。研究者間で繰り返し討議を積み重ねることで結果の確証性を高めた。

(2) シミュレーション教育プログラムの開発

Clinical judgment model (Tanner, 2006) を基盤としたシミュレーション教育プログラムの構成を図 1 に示した。(1)の結果から新人看護師は患者の容体の変化など急変時や多重課題に直面した場合は対応の焦りや状態の見極めが困難となり、観察や判断が不十分になると考えられることから、研究者で協議し、事例 1: 多床室の優先順位の判断と対応、事例 2: 患者の急変時の判断と対応の 2 事例のシナリオを作成した。シミュレーションの目標は多床室の患者の状態を把握し優先順位を考慮した検温とアセスメントができる、患者の状態に応じた的確な観察と判断ができる、と設定した。デブリーフィングは Clinical judgment model (Tanner, 2006) を活用した学習ガイド(三浦他, 2021)を参考に作成した。

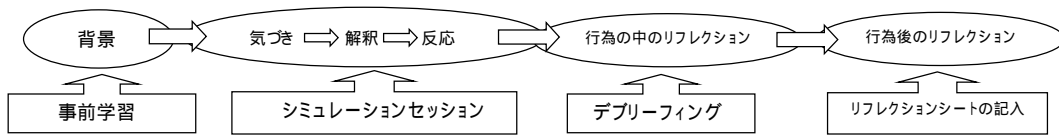


図1 clinical judgment modelにおける臨床判断のプロセスを基盤としたシミュレーション教育の流れ

(3)シミュレーション教育プログラムの実施と評価

対象：本研究の同意が得られた A 県内の新卒後 1 年以内の新人看護師約 26 名を対象にシミュレーション教育プログラム研修を実施した。

シミュレーション教育プログラムの展開：研究参加者を 5 名～6 名 1 グループとし、各グループにファシリテーターを 1 名配置した。ファシリテーターはシミュレーション教育の経験がある研究者が担当した。患者役は多床室の患者のなかで急変する患者は模擬患者とし、それ以外の患者はモデル人形を使用した。研究参加者のうち前半の 3 名は事例 1 を実施し後半の 2 名は多床室患者が訪室時、容体が急変するという事例 2 の設定とした。研究参加者全員がシミュレーションとデブリーフィングを実施した。シミュレーション終了後、REFLECT(田村,2017)を用いた個人リフレクションを行い、研修での気づきや学びを研究参加者で共有した。

調査方法：研修後に運営、内容全般にかかる満足度について質問紙調査を実施した。教育プログラムでのリフレクションの評価を実施した。研修前後、2 か月後に【理論的・実践的推論】【観察による状態の把握】の 2 下位尺度 23 項目からなり 5 件法で回答を求める臨床判断力尺度(Kawase, et al,2021)を使用し、評価を行った。

データ分析方法：属性、満足度については単純集計、臨床判断力尺度については介入前後、2 か月後の各下位尺度合計得点の平均値、中央値を算出し、正規性の検定後 Friedman の検定、Bonferroni 補正を用い分析した。有意水準は 0.05 とした。研修後のリフレクションシートに記載された内容のうち、学びについて記載されている部分を抽出し、ベレルソンの内容分析の手法に基づき分析を行った。結果の信頼性の確保のため、研究者 2 名によるスコットの一致率を算出した。

4. 研究の成果

(1)新人看護師を対象に困難を抱いたことがある臨床判断場面および、その場面における思考プロセスについて

新人看護師が困難を抱いた臨床判断場面には患者の容体の悪化、患者の状態の見極め、複数の受け持ち患者の優先順位の決定、患者の転倒、患者の対応への苦慮が挙げられた。臨床判断が困難な場面における新人看護師の臨床判断プロセスについて 48 のコードから 18 のサブカテゴリー、【患者の異変への気づき】、【分析的思考】、【情報を統合したアセスメントの不足】、【患者の状態の見極めの困難】、【気づきの欠如】、【対応への焦り】、【不十分な観察と判断】、【先輩看護師への相談による判断と対応】、【実践の振り返り】の 9 カテゴリーが生成された。

(2)シミュレーション教育研修プログラムの評価

参加者の概要：研修参加者 26 名のうち、3 回とも質問紙調査に回答した 21 名を分析対象とした(回収率 81%)。性別の内訳は女性 19 名、男性 2 名、平均年齢は 25 歳であった。職場の看護領域は内科病棟が 11 名、小児病棟が 2 名、その他が 6 名であった。

教育プログラムの運営、内容全般にかかる満足度：研修内容に満足したかという問いに対して、全員が「ややあてはまる」「あてはまる」と回答した。研修が看護実践へ活用できるかという問いに対して、全員が「ややあてはまる」「あてはまる」と回答した。

臨床判断力尺度の下位尺度得点の比較：【理論的・実践的推論】はプログラム実施前の中央

値 35.0、平均値 36.2、実施後の中央値 46.0、平均値 44.0、実施 2 か月後の中央値 47.0、平均値 46.2 であった。【観察による状態の把握】は実施前の中央値 32.0、平均値 33.3、実施後の中央値 35.0、平均値 34.5、実施 2 か月後の中央値 39.0、平均値 38.0 であった。【理論的・実践的推論】の実施前と実施後(P=0.006)、実施前と実施 2 か月後(P=0.00002)で有意差がみられた。【観察による状態の把握】の実施前と実施 2 か月後(P=0.001)、実施後と実施 2 か月後(P=0.04)で有意差がみられた(表 1)。

リフレクションシートの内容分析結果：リフレクションシートの記載内容のうち学びが記載されている部分を抽出した結果 92 記録単位に分割された。この単位を分析し新人看護師の学びとして【患者への心理的なケアを行う】29.3%、【十分な観察からアセスメントや判断を行う】26.1%、【先輩看護師へ相談と報告をする】16.3%、【冷静に対応する】7.6%、【必要な情報を収集する】6.5%、【知識を獲得する】5.4%、【患者の状態を予測する】4.3%、【環境を整える】4.3%の 8 カテゴリーが生成された。スコットの一致率は研究者 2 名とも基準の 70%以上であり信頼性を確保していることが示された。

以上の結果から、臨床判断力を育成するためのシミュレーション教育プログラムの有用性が示唆された。

表 1 研修前後、2か月後の臨床判断力下位尺度得点の比較

n = 21

	理論的・実践的推論			観察による状態の把握		
	研修前	研修後	研修2か月後	研修前	研修後	研修2か月後
平均値 ± SD	36.2 ± 5.4	44.0 ± 9.0	46.2 ± 8.6	33.3 ± 4.7	34.5 ± 7.8	37.9 ± 5.3
中央値	35.0	46.0	47.0	32.0	35.0	39.0

フリードマン検定 Bonferroni 訂正

*P<0.05 **P<0.01 ***P<0.001

<引用文献>

阿部幸恵、臨床実践力を育てる看護のためのシミュレーション教育、医学書院、東京、2013、63

程島 健太、山田 享介、土屋 守克、片岡 絢子、中澤 弘子、加藤 幸、救命救急センターの新人看護師に対するシミュレーション教育の技術習得の効果 単一事例デザインによる学習者の個別的な技術習得効果の検証、日本救急看護学会誌、19(1)、2017、52-59

Kawase,Y, Miyashita,M, Okayasu,M and Hirai,Y., Development of a Clinical Judgment Scale for Japanese Nurses, The Journal of Continuing in Nursing 52(8),2021,383-391

厚生労働省HP：新人看護職員研修ガイドライン改訂版、
https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10800000-Iseikyoku/0000049466_1.pdf 2014、2018、10.8 参照

三浦友里子、奥裕美、臨床判断ティーチングメソッド、医学書院、東京、2021、056

西本なをみ、村井 律子、新人看護師における多重課題シミュレーションを導入した研修の有効性 BLS 発動時の判断能力向上への取り組み、日本循環器看護学会誌、4(1)、2008、54-59

田村由美、看護のためのリフレクションスキルトレーニング、看護の科学社、東京、2017、39-42

Tanner,C.A.,Thinking Like a Nurse: A Research-Based Model of Clinical Judgment in Nursing,Journal of Nursing Education,45(6),2006,204 211

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 川瀬淑子, 平井由佳, 岡安誠子, 松本亥智江
2. 発表標題 新人看護師が困難を抱く臨床判断場面と臨床判断プロセス
3. 学会等名 日本看護学教育学会第32回学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 川瀬淑子 岡安誠子 平井由佳 高橋梢子 松本亥智江
2. 発表標題 新人看護師の臨床判断力を高めるシミュレーション教育プログラムの開発と効果
3. 学会等名 日本看護学教育学会第33回学術集会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	平井 由佳 (Hirai Yuka) (20335524)	島根県立大学・看護栄養学部・准教授 (25201)	
研究分担者	梶谷 麻由子 (Kajitani Mayuko) (20592075)	島根県立大学・看護栄養学部・助教 (25201)	削除：2022年6月15日

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	吉川 洋子 (Yoshikawa Yoko) (30280126)	島根県立大学・看護栄養学部・教授（特任） (25201)	削除：2022年6月15日
研究分担者	岡安 誠子 (Okayasu Masako) (30346712)	島根県立大学・看護栄養学部・教授 (25201)	
研究分担者	松本 亥智江 (Matsumoto Ichie) (70262780)	島根県立大学・看護栄養学部・准教授 (25201)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連携研究者	高橋 梢子 (Takahashi Shoko) (90453240)	島根県立大学・看護栄養学部・准教授 (25201)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関